

東奥日報
2025年(令和7年)3月12日(水曜日) (7)

八戸工業大学の学長に就任



「喫緊の課題は学生確保。」

八戸工業大が地域から愛され、行ってみたい大学と思ってもらえるような魅力をどんどん発信していかなければ。

就任会見で柔和な笑顔を見せながら、大学の現状を鋭く指摘し「学長就任後は県内の高校へのトップセールスに取り組みたい」と意欲を見せた。

1月31日の理事会で学長就任を承認した大学の運営法人側は「人脈や専門性が本学にとって新しい風、追い風になる」と期待を寄せる。

岩手大在職中、学生獲得のため北海道から愛知県まで各地を回った。宮城県北地域の

高校を訪問した際、同大に工学部があることが知られておらず「厳しい現実を突きつけられた」と振り返る。このため「われわれを知ってもらう努力は惜しまない。これまでの経験を生かしながら八工大の魅力をアピールする」と力を込める。

新潟県上越市出身。実家が農機具店で、機械の組み立てや扱いに慣れていたため、大学入学後は機械工学の道へ。主に航空エンジンやロケットエンジンに関する教育研究に取り組んできた。「今の中高生はハード（機械）に触れる機会が乏しく、理工系へのイメージを持ちにくい。実際にハードに触れたりものづくりに携わったりしてもらい、工学の面白さを伝えていけたら」と思いを巡らせる。

船崎 健一さん



八戸市には何度も訪れたことがあり、率直な印象は「酒と魚がおいしい」。長女と長男は独立し、盛岡市内で妻と2人暮らし。学長就任後は妻と八戸に拠点を移し「青森県内を回ろうと計画中」と声を弾ませる。67歳。

(千葉真由美)

【本記24面】

※「この画像は該当ページに限って東奥日報社が利用を許諾したものです」